

2005年(平成17年)10月3日(月曜日)

GPS観測点を現場で描画

大浦工測、NGS モバイル・マッピングソフト

建築測量(墨出し)大手の大浦工測(東京都北区、大浦達司社長)は、日立造船グループの日本GPSソリューションズ(NGS、東京都大田区、山本吾朗社長)と共同でモバイル・マッピング・GPSソフト「NSスケッチ」を開発した。NGSが販売する1級GPS測量機「NetSurv

V(ネットサーブ)シリーズ」専用のソフトで、NetSurvコントローラーの携帯情報端末(PDA)にインストールすることで、簡単にモバイル・マッピング・ツールとして利用できる。10月から発売する。

NetSurvは、測位方式に国土地理院が保有する全国約1200カ所の電子基準点のリアルタイムデータを使用するネットワーク型RTK-GPS測位を使用。この測位方式は、GPS受信機1台からセンチメートルオーダーの座標取得が可能なこと、工事測量や地物管理など適用分野が急速に拡大している。

一方、従来の測量用GPSは、主に公共基準点などの位置座標の測量などに使用されており、図画に必要な工事測量や地形の計測作業では、現場で取得した測量データを事務所のCADシステムで再定義するといった手間を要していたという。「NSスケッチ」は、GPSでの観測点を現場

で点や線、軌跡として描画し、CADデータとして保存できるため、GPS測量からCAD図作成までの業務の大幅な効率化を実現する。

販売予定価格は15万円。初年度50本の販売を計画している。